

脱炭素テクノロジー株式ファンド(予想分配金提示型)

愛称：カーボンZERO（予想分配金提示型）

追加型投信／内外／株式

信託期間：2022年4月5日から2026年7月10日まで

基準日：2025年12月30日

決算日：毎月11日（休業日の場合翌営業日）

回次コード：2790

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

《基準価額・純資産の推移》

2025年12月30日現在

基準価額	11,129円
純資産総額	192百万円

期間別騰落率

期間	ファンド
1ヶ月間	+1.7%
3ヶ月間	+9.1%
6ヶ月間	+18.5%
1年間	+19.4%
3年間	+44.3%
5年間	-----
年初来	+19.4%
設定来	+34.0%



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1~32期	合計：1,100円
第33期 (25/01)	0円
第34期 (25/02)	0円
第35期 (25/03)	0円
第36期 (25/04)	0円
第37期 (25/05)	0円
第38期 (25/06)	0円
第39期 (25/07)	100円
第40期 (25/08)	100円
第41期 (25/09)	100円
第42期 (25/10)	200円
第43期 (25/11)	200円
第44期 (25/12)	200円
分配金合計額	設定来：2,000円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

《主要な資産の状況》

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成	合計100.0%					
	資産	銘柄数	比率	通貨別構成	合計100.0%	比率
外国株式	69	96.3%		米ドル	64.0%	
国内株式	1	1.3%		ユーロ	18.2%	
外国リート	1	0.9%		オフショア人民元	3.8%	
コール・ローン、その他		1.6%		デンマーク・クローネ	3.1%	
合計	71	100.0%		英ポンド	2.6%	
国・地域別構成		合計98.4%	国・地域名	比率	台湾ドル	2.3%
			アメリカ	63.6%	日本円	2.2%
			ドイツ	5.5%	カナダ・ドル	1.9%
			フランス	5.4%	香港ドル	1.1%
			中国	4.7%	その他	0.8%
			デンマーク	3.1%		
			オランダ	3.0%		
			イギリス	2.5%		
			スペイン	2.5%		
			台湾	2.3%		
			その他	5.8%		
株式 業種別構成		合計97.6%	業種名	比率		
			資本財・サービス	42.1%		
			情報技術	27.9%		
			公益事業	11.0%		
			素材	10.9%		
			一般消費財・サービス	2.8%		
			ヘルスケア	2.5%		
			生活必需品	0.3%		

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※外国株式の国・地域名については、原則としてMSCI Inc.が提供するリスク所在国・地域に基づいて表示しています。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

設定・運用:

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

組入上位10銘柄				合計28.5%
銘柄名	業種名	国・地域名	比率	
MICROSOFT CORP	情報技術	アメリカ	6.1%	
JOHNSON CONTROLS INTERNATIONAL PLC	資本財・サービス	アメリカ	3.0%	
SCHNEIDER ELECTRIC	資本財・サービス	フランス	2.7%	
NEXTERA ENERGY INC	公益事業	アメリカ	2.7%	
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	ヘルスケア	アメリカ	2.5%	
IBERDROLA SA	公益事業	スペイン	2.5%	
DELTA ELECTRONICS INC	情報技術	台湾	2.3%	
ASML HOLDING NV	情報技術	オランダ	2.3%	
ON SEMICONDUCTOR CORP	情報技術	アメリカ	2.3%	
QUANTA SERVICES INC	資本財・サービス	アメリカ	2.2%	

※比率は、純資産総額に対するものです。

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※外国株式の国・地域名については、原則としてMSCI Inc.が提供するリスク所在国・地域に基づいて表示しています。

【市場動向】

グローバル株式市場は上昇

12月のグローバル株式市場は上昇しました。FRB（米国連邦準備制度理事会）の利下げ期待やウクライナ戦争停戦への期待が株高を後押しし、月初から堅調に推移しました。月半ばには、AI（人工知能）への過剰投資懸念から下落しましたが、米トランプ政権によるエヌビディアのAI向け半導体の対中輸出審査開始報道を受け、半導体関連株を中心に反発しました。

米ドル円は横ばい、ユーロ円は上昇

米ドル円は前月末とほぼ同水準となりました。高市政権による拡張的な財政政策への思惑や、日銀の追加利上げに慎重な姿勢が円安要因となりました。一方、FRBによる利下げ期待が米ドル安要因となりました。結果的に円と米ドルの弱さが拮抗し、米ドル円は方向感に欠ける動きとなりました。

ユーロは対円で上昇しました。欧州の利上げの可能性が織り込まれ、金利が上昇したことなどがユーロ円の上昇要因となりました。

【ファンドの運用状況】

月間の動き

欧米の保有銘柄の株価上昇やユーロの対円での上昇がプラス要因となり、基準価額は前月末比で上昇となりました。

個別銘柄では、シノプシスやヴェスタス・ウインド・システムズなどが上昇しました。半導体の設計を自動的に行うソフトウェアを手掛けるシノプシスは、2025年10月期の堅調な業績や受注残の増加、2026年度の前向きなガイダンスに加えて、エヌビディアによる戦略的投資が追い風となりました。ヴェスタス・ウインド・システムズは、資金調達環境の改善や受注見通しの安定化を背景に、風力発電設備メーカーに対するセンチメントが改善しました。また、GEベルノバも、送配電インフラおよび発電分野への投資テーマに対する投資家の関心を背景に上昇しました。

運用のポイント

12月はポートフォリオに大きな変更は加えず、ファンドの資金動向に応じてポジションを調整しました。

【今後の展望・運用方針】

市場展望

世界のクリーンエネルギー・セクターは、構造的なトレンドによって、引き続き魅力的かつ注目すべき投資対象と捉えています。政策面の不透明さやマクロ経済の不確実性が続く中でも、ファンダメンタルズは着実に強化されています。特に、2025年に成立した「1つの大きく美しい法（One Big Beautiful Bill）」は市場に安心感をもたらし、クリーンエネルギー全般にわたる見通しが当初の懸念よりも緩和される結果となっています。依然として大統領令や規制の先行きなど不透明要因は残りますが、補助金縮小やプロジェクト進行遅延への懸念は一定程度緩和されています。立法上のセーフハーバー条項は、今後のプロジェクトの案件残高を安定させると見込まれており、多くの企業が成長見通しや受注の可視性に前向きなコメントを示すと予想されます。

住宅用太陽光発電やグリーン水素といった補助金に依存する分野では、米国のクリーンエネルギー支援政策の変更における懸念が残るもの、再生可能エネルギー市場のファンダメンタルズは引き続き強固となっています。技術革新や規模の経済により、太陽光、風力、蓄電などはますますコスト競争力を高めており、多くの地域において最も経済的なエネルギー源となっています。

送電網にも大きな投資機会があると注目しています。既存の電力網は老朽化が進み、新たな電力需要の拡大に十分に対応できない状況にあります。推計によると、再生可能エネルギーに1ドル投資するごとに、送電・配電インフラにも同額の投資が必要とされています。

エネルギー効率に優れたソリューションも引き続き主要な投資テーマです。これには建築、製造、データセンター分野などが含まれ、コスト削減と二酸化炭素排出の削減が需要をけん引しています。企業や各国政府が脱炭素化を推進する中、低炭素技術やコスト削減につながるソリューションへの需要は引き続き堅調です。

さらに、AIの急速な普及などを背景に、今後10年で電力需要が大幅に増加すると見通されており、これに伴いエネルギー開発および送電網への投資強化が不可欠となっていることが、脱炭素関連銘柄の追い風になるとみています。

運用方針

当ファンドでは、エネルギーの効率的利用、エネルギーの転換、エネルギーの貯蔵に着目し、脱炭素社会の実現に向けたソリューションを提供する企業に投資を行います。脱炭素社会の実現は、世界的に取り組まれている重要課題であり、政策的にも大きな支援を受ける長期的な成長テーマです。

運用にあたっては、引き続き、脱炭素関連市場のなかで、競争優位性を有し、中長期的に高い成長が見込まれる銘柄を選別し、ポートフォリオの構築を行っていく方針です。

組入上位銘柄紹介

銘柄名(国・地域名／業種名)

※カンドリアム・エス・シー・エーが提供するコメントを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

銘柄紹介

マイクロソフト (アメリカ/情報技術)	マイクロソフトは、ソフトウェア製品の開発、クラウドサービス等を行うIT業界のマーケットリーダー。同社のクラウドサービスは、データセンターのエネルギー効率を高めることや、再生可能エネルギーを調達することで、高い炭素効率性を実現。
ジョンソンコントロールズ (アメリカ/資本財・サービス)	ジョンソンコントロールズは、スマートビルディングのグローバルリーダー。建物の省エネを促進するビル管理システムや空調制御用機器、産業用冷凍機器などを手掛ける。サステナブルな建築ソリューションに深い専門知識を有し、エネルギー消費量の削減と建物性能の最適化を可能にする技術やサービスを提供。
シュナイダーエレクトリック (フランス/資本財・サービス)	シュナイダーエレクトリックは、自動車用充電設備や電力設備、電化製品などを幅広く開発・製造。同社はエネルギーと資源効率の高い商品の開発に長年注力し、脱炭素社会実現に向けた取り組みに貢献。
ネクステラ・エナジー (アメリカ/公益事業)	ネクステラ・エナジーは、米国の大手電力会社。風力や太陽光などの再生可能エネルギーを利用した発電に強みがあり、他の電力会社と比べて再生可能エネルギーを利用する割合が高い。蓄電池施設の建設にも注力しており、再生可能エネルギーを用いた発電を行うとともに、再生可能エネルギーの弱みの1つであった安定した電力供給を可能にすることが期待される。
サーモフィッシャーサイエンティフィック (アメリカ/ヘルスケア)	サーモフィッシャーサイエンティフィックは、ライフサイエンスの世界的リーダーであり、科学、医療、環境分析の機器などを製造。資源の節約を意識した製品設計とプロセスを組み込むことで、脱炭素に役立つ持続可能なソリューションを提供。
イベルドローラ (スペイン/公益事業)	イベルドローラは、クリーンエネルギーに特化したスペインの大手電力会社。エネルギー転換において競合他社よりも早期に取り組み、再生可能エネルギーの世界的リーダーとしての地位を確立。風力発電や太陽光発電に加えて、送配電、水素インフラ、エネルギー貯蔵システムなどを手掛ける。
デルタ電子 (台湾/情報技術)	デルタ電子は、台湾の電子機器メーカー。通信機器用電源や、電力を効率的に変換するスイッチング電源などの電源製品、インフラや産業自動化におけるクリーンエネルギーソリューションなどを提供。世界各地に研究開発センターを設置し、エネルギー効率の高い省エネ製品の開発に注力している。
ASMLホールディング (オランダ/情報技術)	ASMLホールディングは、半導体製造装置、特にリソグラフィーによるチップ製造用の機械を開発、製造、販売を行う。エネルギー効率の高い半導体の製造を可能とすることで、さまざまなデジタル電子デバイスにおける必要な電力を削減することに貢献。
オン・セミコンダクター (アメリカ/情報技術)	オン・セミコンダクターは、米国の半導体メーカー。データ管理および電力管理用のアナログ、標準ロジック、および単機能半導体などを供給。エネルギーインフラや自動車の電動化、データセンターなど多岐にわたる分野において効率性を高めるソリューションを提供。
クアンタ・サービスシーズ (アメリカ/資本財・サービス)	クアンタ・サービスシーズは、米国大手の包括的なインフラソリューションプロバイダー。送配電網や変電所などの電力インフラや、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーインフラに関して、エンジニアリングから建設、メンテナンス等の幅広いサービスを提供。顧客の送電網の近代化、強化プログラム、再生可能エネルギー開発をサポート。

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

《ファンドの目的・特色》

ファンドの目的

- ・日本を含む世界の株式等の中から、脱炭素社会の実現に向けたソリューションを提供する企業に投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

- ・日本を含む世界の株式等の中から、脱炭素社会の実現に向けたソリューションを提供する企業に投資します。
- ・運用にあたっては、カンドリアム・エス・シー・エーから助言を受けます。
- ・ファンド全体としてカーボンゼロをめざします。
- ・毎月 11 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

（注）第 1 計算期間は、2022 年 5 月 11 日（休業日の場合翌営業日）までとします。

《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

価格変動リスク・信用リスク
株価の変動 組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。
発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

当ファンドは、特定の業種への投資比率が高くなるため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。
新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。

価格変動リスク・信用リスク
リートの価格変動 組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
リートの価格は、不動産市況の変動、リートの収益や財務内容の変動、リートに関する法制度の変更等の影響を受けます。

為替変動リスク 外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
特に、新興国の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

カントリー・リスク 投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。
新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。

その他 解約資金を手当てるため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

《ファンドの費用》

投資者が直接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
購 入 時 手 数 料	販売会社が別に定める率 (上限) <u>3.3%</u> (税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信 託 財 産 留 保 額	ありません。	—

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
運 用 管 理 費 用 (信 託 報 酬)	<u>年率1.837%</u> <u>(税抜1.67%)</u>	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配 分 (税抜) (注1)	委託会社	年率0.90%
	販売会社	年率0.75%
	受託会社	年率0.02%
そ の 他 の 費 用・ 手 数 料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合せ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

《お申込みメモ》

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万口当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万口当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 5 営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	<p>① ニューヨーク証券取引所またはロンドン証券取引所の休業日</p> <p>② ①のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日</p> <p>（注）申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合せ下さい。</p>
申込締切時間	<p>原則として、午後 3 時 30 分まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）</p> <p>なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合せ下さい。</p>
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	<p>次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）できます。</p> <ul style="list-style-type: none">・受益権の口数が 30 億口を下すことになった場合・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	<p>年 12 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。</p> <p>（注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合せ下さい。</p>
課税関係	<p>課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。</p> <p>公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。</p> <p>当ファンドは、NISA の対象ではありません。</p> <p>※税法が改正された場合等には変更される場合があります。</p>

《収益分配金に関する留意事項》

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

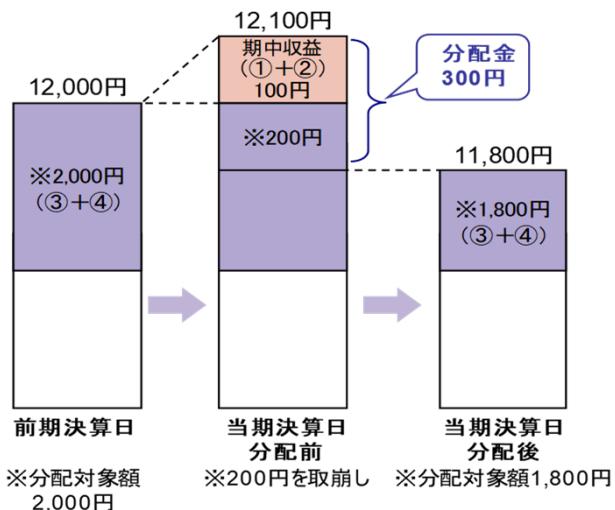
投資信託で分配金が支払われるイメージ



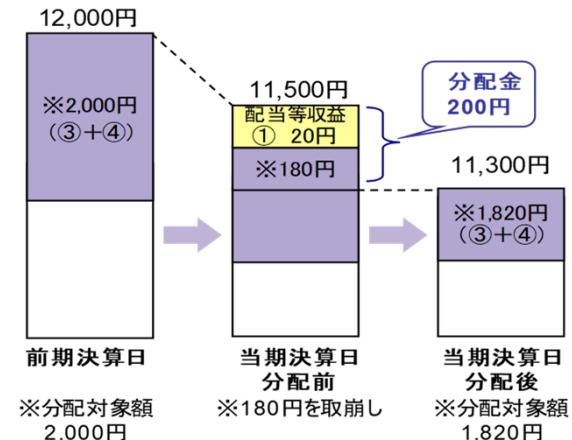
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



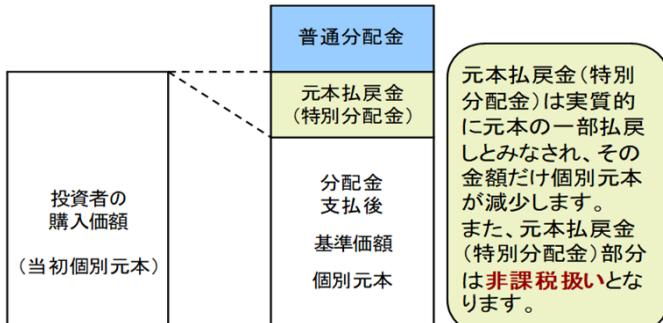
前期決算日から基準価額が下落した場合



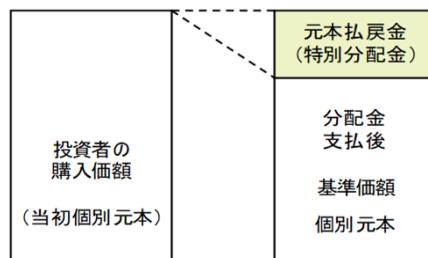
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本戻し金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本戻し金（特別分配金）の額だけ減少します。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

《当資料のお取り扱いにおけるご注意》

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

- ▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00)
- 当社ホームページ
- ▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

脱炭素テクノロジー株式ファンド（予想分配金提示型）（愛称：カーボンZERO（予想分配金提示型））

販売会社名（業態別、50音順） (金融商品取引業者名)	登録番号	加入協会			
		日本証券業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合せ下さい。